

実社会に有効な学生のコンピテンシーの開発

事業概要

本事業は、アクティブ・ラーニング実施科目の体系化を図り、それぞれの科目でどのようにアクティブ・ラーニングが行われるかを学生に明示すると同時に、アクティブ・ラーニングが適切な指導のもので行われるように、教員の教育力の養成を目指すものです。加えて、学生には、アクティブ・ラーニングの有効性を高めるために、複数の専門的な支援スタッフを配置し、対応します。教員に対しては、アクティブ・ラーニングの手法を分類したうえで、その到達目標と適切な評価方法を教員間

で共有できるように全員参加型のFDプログラムを実施します。アクティブ・ラーニング形式の授業を大幅に増やし、ルーブリックを採用することで、学修到達目標を明確にするとともに、学生の授業外学修時間を十分に確保します。これにより、授業満足度および学修到達度等にかかわる全学的な教学マネジメントの改善を図ります。さらに、学修成果の可視化を促進し、実社会に有効な学生のコンピテンシーの開発につなげていきます。

社会からの要請

玉川大学の教育理念
Tamagawa Vision
2020

21世紀社会を支える高次汎用能力を備えた人材
どのような時代や社会にも通用する高次汎用能力と態度・志向性をもった人材の育成

実質的な学修時間の増加

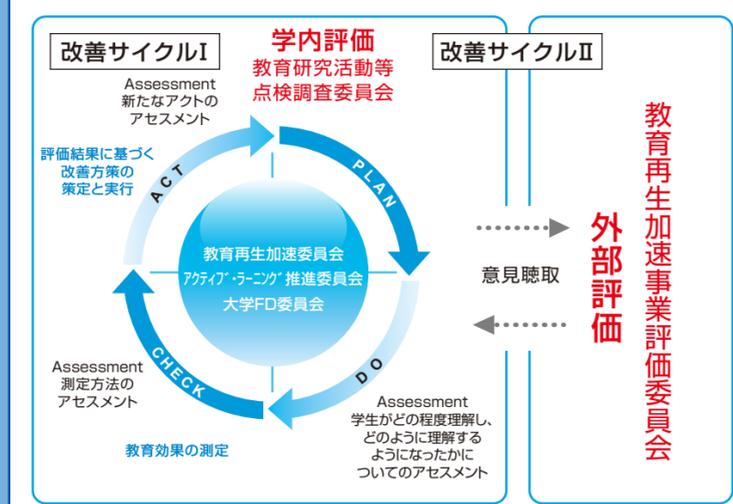
目指すコンピテンシーの養成

全学的な教学マネジメントの改善

<実施計画>

- アクティブ・ラーニング実施科目の体系化
- アクティブ・ラーニングの推進と体系化
 - ・アクティブ・ラーニング科目の体系化
 - ・アクティブ・ラーニング・ハンドブックの作成
 - ・アクティブ・ラーニングの手法研究・開発
 - ・ルーブリック評価の採用
 - ・ラーニング・コミュニティの設置
 - ・専門的な支援スタッフの配置
- 教員の教育力養成
 - ・全員参加型のFDプログラム
 - ・ルーブリック・ワークショップの開催
 - ・ティーチング・ポートフォリオの活用と教員評価
- 学修プロセス・成果の可視化
 - ・学生ポートフォリオの活用
 - ・学生の学修到達度調査の継続
 - ・学生の学修行動調査の継続
- 実社会における学修の有効性の研究・開発
 - ・全学共通のキャリア科目の再点検、新規科目開設

<本事業の実施・推進体制> 学長のリーダーシップ



玉川大学



〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1
 教学部内 大学教育再生加速プログラム事務局
 ☎ 042-739-8812



文部科学省大学教育再生加速プログラム

平成26年度採択 テーマI・II複合型



21世紀社会を支える 高次汎用能力を備えた人材育成

—アクティブ・ラーニングの推進と学修成果の可視化—

本事業は、新たな学修環境を構築することにより、21世紀社会を支える高次汎用能力を備えた人材の育成を目指すものです。

本学では近年の中教審答申、教育再生実行会議提言などを踏まえ、これまで学修環境の整備を行ってきました。ここで述べる学修環境とは、本学の教育理念、人材育成目標、ディプロマ・ポリシーを実現すべくハードとソフトの両面にわたる学修環境全般の整備を指します。

創立者が「生まれながらにして唯一無二の個性をもちつつも、万人共通の世界をも有する存在」とした人間観に基づき、本学では、「教育による人格の陶冶(人格の形成)」と「個の確立・協同性の確立」を建学以来、全人教育の理念として掲げてきました。それらを踏まえ、現在は具体的な教育の使命として「21世紀の日本社会・世界へ貢献することのできる人間の育成」「人類社会の文化進展に寄与できる人間の育成」を提示しています。

時代の枠組みが大きく変わりつつある21世紀社会は、同時に予想困難な時代でもあります。そのため、かつて人類が経験したことのない新たな状況に対応できる人材の育成が急務となります。本学はそうした状況に鑑み、どのような時代や社会にも通用する高次汎用能力と態度・志向性をもった人材こそが、21世紀社会はもとより、人類社会の文化進展に寄与できる人間と考えています。

玉川大学

本事業の背景

本学は創立以来「全人教育」を教育理念の中心として、人間形成には真・善・美・聖・健・富の6つの価値を調和的に創造することを教育の理想としています。

その理想を実現するため12の教育信条 — 全人教育、個性尊重、自学自律、能率高き教育、学的根拠に立てる教育、自然の尊重、師弟間の温情、労作教育、反対の合一、第二里行者と人生の開拓者、24時間の教育、国際教育を掲げた教育活動を行っています。なかでも自学自律を、「教えられるより自ら学びとること。教育は単なる学問知識の伝授ではなく、自ら真理を求めようとする意欲を燃やし、探求する方法を培い、掴み取る手法を身に付けるものである」と定義し、学生指導にあたっています。

これらの理念や信条に基づき、中教審答申や高等教育政策、社会のニーズを踏まえた様々な改革を行ってきました。

特に平成23年度には大学教育の質保証をキーワードにしたTamagawa Vision 2020を策定し、目標達成に向けたAction Planを掲げ、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを回して実行しています。

Tamagawa Vision 2020とは?

「教育活動における数値目標・指標の設定と国際的評価への対応」「教授主義から修得主義への転換」「客観的根拠に基づく実践・体験型教育の推進」「教員の教育力の向上」など11の項目で構成されています。平成32年度までのロードマップを4つのフェーズに分けて実施します。

フェーズ1 (平成23年度～平成25年度) で実施してきたことは、

- ① 単位の実質化に向けて、履修登録上限単位数を半期16単位へ変更
- ② 全学部の卒業要件に累積GPA 2.00以上を付加
- ③ 全授業科目において、通常のシラバスに加え、学修指導書となるシラバスを追加作成
- ④ GPAによる学修警告制度の実施
- ⑤ 学生ポートフォリオの導入
- ⑥ 授業外学修時間を確保するための時間割の工夫
- ⑦ 授業科目のナンバリング
- ⑧ 本学における学士力(コンピテンシー)の策定などです。



学修環境整備の一環として平成27年4月より「大学教育棟2014」(学術情報図書館、ラーニング・コモンズ)の運用を開始します。

全体計画

アクティブ・ラーニング実施科目の体系化を行い、それぞれの科目でどのようにアクティブ・ラーニングが行われるかを学生に明確に提示する。体系化されたアクティブ・ラーニング科目については、『アクティブ・ラーニング・ハンドブック』を新たに作成し、Web上で公開する。

アクティブ・ラーニングの手法を分類したうえで、それぞれの到達目標とルーブリックを活用した適切な測定方法を教員が共有する。そのうえで、年度毎に教員がティーチング・ポートフォリオに記載した記録を学部長、担当職員が分析・評価する。また、その評価を教員の昇任昇格に反映させる。

アクティブ・ラーニングがより適切に展開されるように「ラーニング・コモンズ」常駐の専任教員2名、非常勤教員2名、事務補佐員2名を配置する。

アクティブ・ラーニングを実施する科目においては実社会との関連性を十分に意識しなければならないことから、定期的に学外者によるレビューを実施し、助言を仰ぐ。

現行の学修成果の測定方法を見直し、講義中心型科目のアクティブ・ラーニング化を推進する。

教員が適切にアクティブ・ラーニングを実施できるように週末および夏季・春季休暇に研修会(ワークショップ)を開催する。開催に当たってはローテーション方式による全員参加とする。

学修成果を客観的に把握するために、4年次の春学期終了時点において日本語、英語、数学の「学修到達度テスト」を実施する。一定の基準に達していない場合は、サマー・ウィンターセッション期間中に指導を行う。

平成27年度より、年に一回『教学マネジメントの改善』に関するシンポジウムを開催し、その中で「アクティブ・ラーニング」の体系化が教学マネジメントに果たす役割について報告を行う。

実施計画の詳細

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
アクティブ・ラーニングの推進と体系化	アクティブ・ラーニングの体系化の検討	学修支援の強化(専任スタッフの配置)			
	アクティブ・ラーニングに関する教員調査				
	FDerの養成・増員				
教員の教育力養成	ティーチング・ポートフォリオシステムの一次開発	ティーチング・ポートフォリオシステムの二次開発	アクティブ・ラーニング・ハンドブックの刊行		
	ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップの開催		アクティブ・ラーニング・ワークショップの開催		
	ルーブリック・ワークショップの開催				
学修プロセス・成果の可視化	アクティブ・ラーニングによる学修成果の検証	学修成果に関する卒業生調査の実施	学修成果に関する卒業生調査の実施		
	学修到達度テストの実施				
	学修成果の確認と指導				
本事業の評価・広報	外部評価の実施				
	専用Webサイトの開設	シンポジウムの開催			
	リーフレットの作成・配付	報告書の発行			